

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2775502194		
法人名	医療法人 幸晴会		
事業所名	こうせい苑グループホーム		
所在地	大阪府八尾市北木の本5-6-1		
自己評価作成日	平成 27年 8月 5日	評価結果市町村受理日	平成 27年 10月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2775502194-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 27年 9月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の医療法人幸晴会と連携を密にし、利用者様、家族様共に安心して頂ける環境にあります。2階には、ウッドデッキがあり、野菜や花等を育てています。それらのお世話を毎日して下さる利用者様もあり、微笑ましく思っております。利用者様に質の高いサービスを提供出来る様、内部・外部の研修、フロアごとの勉強会等にて職員も専門性の向上に努めております。「やさしく・親切・丁寧」「目配り・気配り・心配り」をモットーに職員は、丁寧な言葉使いや穏やかな接し方で利用者様に寄り添い、その方のペースにあわせた支援を日々考え、取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に貢献する医療法人が利用者の声に応え開設したグループホームです。「目配り・気配り・心配りの『個別・自立支援』、優しく・親切・丁寧で『その人らしさを尊重』、地域と和合して『安全・安心』の理念を職員は共有し、一人ひとりに合わせた個別ケアを実践しています。母体の医療法人との連携は、利用者・家族の大きな信頼と安心感になっています。運営推進会議などを通じて地域とのつながりが拡がり、ボランティアや園児による訪問、中学生の職場体験など、外部からの来訪者も多くあります。職員の人材育成にも積極的に取り組み、内外の研修に多く参加しています。安心して働くことができる職場環境は離職者が少なく、チームワークもよく、ホーム全体の明るく穏やかな雰囲気を作っています。また、職員はホームでの看取りの貴重な経験から学んだことを日々のケアに活かしています。「利用者の表情と職員のチームワークの良さが私たちの自慢」という管理者・職員が支える暮らしは、ほのぼのとした温かい雰囲気の中で、いつもどこからか利用者・職員の明るい笑い声が聞こえてくるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、常に目に入る場所に掲示している。個々の自立支援を心がけ、その人らしく安心安全に生活して頂けるよう心掛けている。	「目配り・気配り・心配りの『個別・自立支援』、優しく・親切・丁寧で『その人らしさを尊重』、地域と和合して『安全・安心』」の理念を職員は共有し、一人ひとりに合わせた個別ケアを実践しています。	今後、運営推進会議や家族交流会の機会に理念について伝える機会を持ち、地域や家族から、より理念の理解や支持が得られるようにしてはいかがでしょうか。また、理念のさらなる実践に向けて、具体的な目標を検討されてはいかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して利用者や苑の状況を伝え、地域に理解して頂ける様にしている。地域のボランティアや保育園児と定期的な交流を持ち、日常的に近所のコンビニへの買い物や散歩、ふれあい祭りへも参加している。又、苑の夏祭りへの招待等で交流を深めている。中学校の職業体験の受け入れの際は利用者が主となり学生と対したりしている。	ホームと地域の関係は、年々密なものになっています。地域の行事にも積極的に参加し、小学校でのふれあい祭りでは、ホーム専用の席を設けてくれるなど、地域にホームが周知されました。ボランティアの訪問も多く、コーラス・フラダンス・大正琴等の協力は、利用者の豊かな暮らしを支える大きな力になっています。利用者も来訪者に対して、おもてなしをしています。また、近隣保育園の園児交流も、利用者の楽しみの一つです。ホームも中学校の職業体験の受け入れや、地域の廃品回収に貢献しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症についての研修や勉強会の内容について説明させて頂き、質問にも答えさせて頂いている。又地域の方からの相談にも可能な限り支援の方法など提案させて頂いている。ボランティアの皆様には利用者とのコミュニケーションを通して理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上に向けた取り組みや実施したサービス、地域との交流や特に取り組んだ事などの報告を行い、助言・要望を頂き意見交換をしています。議事録は記録・回覧しサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、市職員、民生委員、高齢クラブ代表、利用者、利用者の家族の参加を得て、2ヵ月に1回、定期的に開催しています。会議の場所は、利用者の様子が良くわかるホームのリビングで行っています。ホームより、利用者の健康管理、支援の状況、地域との連携や交流の状況、サービスの質を向上させるための取り組み等を報告しています。また、毎回特別なテーマで参加者と話し合い、評価や助言を得ています。最近のテーマは、外部評価の意義や目的、認知症、感染症予防、災害対策等です。会議録は、参加者と家族に送付しています。全職員にも回覧し、内容を共有しています。参加者の情報や助言をサービス向上に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課とは常に相談出来る環境にある。運営推進会議の委員の推薦もして頂いている。	市の関係部署とは、何でも相談できる関係にあります。事故報告もしています。運営推進会議に参加の職員には、ホームの現状や課題を伝える機会と捉え、情報提供に努めています。市が開催する事業所連絡会や、施設分科会に参加し、市・他事業所と情報の交換と連携を深めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を行い内容を正しく理解し取り組んでいる。帰宅願望の方がおられるので、日中職員が十分見守りのできる時間帯のみエレベーターの暗証番号を解除し、希望がある時は付き添って出掛けている。自由にベランダへも出てもらい、玄関ドアも開けたままにするなどし、解放感のある空間にしている。	ホーム長は、身体拘束をしないケアの重要性を認識し、職員と共に日々のケアに取り組んでいます。職員は、法人が定期的開催する研修会に参加し、研鑽しています。職員の見守りができる昼間の時間帯は、エレベーターの暗証番号を解除し、施錠しないケアにも取り組んでいます。2階には、利用者が自由に出入りし、日光浴や外の景色を楽しめる広いスペースのベランダが設置されており、解放感があります。職員が外出しそうな利用者を察知した時は、さりげなく一緒に行動する支援をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修や毎月の色々な角度からの勉強会で職員全員が学べるようにしている。日常的に利用者の身体の状態観察をし、職員間でしっかり共有し、虐待を見過ごす事のないようにしている。職員のストレスが溜まらないよう悩みなど話しやすい環境もあり防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を利用されている利用者様がおられる。職員は研修に参加した者から全体会議等で報告を受け学んでいる。今後も研鑽を積んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度説明を行い、文書にて了解を頂いている。不安や疑問等がある場合ご理解・納得して頂けるまで十分な説明に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、面会簿にもご意見欄を作っており、言葉を書かれている家族様もおられる。面会時には家族様と気軽に話せる関係が出来ており、要望等無いかも常にお聞きするようにしている。運営推進会議でもご意見を頂いている。苦情受付窓口や市や府の窓口を掲示し、重要事項説明書にも記載している。	利用者や家族から意見や要望を表出しやすくする環境整備に取り組んでいます。利用者には、自治会『白百合町会』を職員の支援で開催し、季節の話題に始まり、食べたい物、行きたい場所等の意見を聞いています。家族には、3ヵ月に1回、ホームでの生活状況が伝わるたくさんの写真入りの「ふれあい新聞」を家族に送っています。また、年2回、利用者一人ひとりの暮らしぶり・健康状態・支援の内容等の詳細な情報提供をして信頼関係の構築に努めています。年1回の家族交流会、運営推進会議、面会の機会に要望等を聞いてホームの運営に活かしています。昨年は家族アンケートを実施し、家族の満足度等を把握しています。	家族アンケートを更に有効なものにするために、今後はホームとして一番確認したいテーマに絞り、実施することを検討されてはいいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議で発言しやすい環境を作り、出された意見を反映させている。 又職員と接遇セルフチェックに記入後、面接を行い意見等を聞いている。	ホーム長は、職員の意見や要望をホームの運営に活かすことの大切さを認識しています。職員の全体会議やユニット毎の会議に参加し、職員の意見を聞いています。個人面接でも意見を聞いています。利用者の重度化に伴い、職員が利用者に関わる時間を多くするため、昼食を併設のデイサービスセンターで作ってもらうことに移行したことも、職員の意見を反映させた一例です。職員の意見が尊重され、チームワークのよい職場環境は、職員の離職者が少ない状況です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が専門性の向上に努められる様、内部・外部の研修を実施し、意識向上を図っている。 又働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部の研修も積極的に取り入れている。資格修得の為に法人内部での対策講座を開催している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市介護保険事業所連絡協議会、大阪認知症グループホーム協議会に加入し、研修会、勉強会に参加し、意見交換等でサービス向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	開示されている情報を入居前に把握し、入居後は会話の内容や表情等から本人が不安な事や要望に気づき、職員全員で共有出来るようわかりやすく記録し、統一した対応を心がけ、安心して信頼されるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時はもちろんのこと、面会時や計画書説明時に本人の様子を伝え、家族様にも安心して話してもらいやすい雰囲気作りに努め、利用者を共に支える関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」まず必要とされている支援を見極められるよう本人・家族様と十分に接し、お話しをし、最善の対応が出来るよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必要なところは援助させて頂くが、人生経験を積んでこられた先輩達に私達が教えて頂く場面も多く、共に助け合い共に喜び共に楽しむ関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までの生活状況を聞いたり現在の状態を伝えたり、安心して暮らせるように本人を中心に支援の方法を家族と相談している。本人にとって家族との時間は何より大切な事であり、共に支えていく関係を続けていきたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出は身体的にも難しくなっておられる方が多いが、家族様・知人様にはいつでも来苑して頂ける関係作りが出来ている。居室で御主人の法要をされる方もおられます。	馴染みの友人がホームに訪問しています。入居前に通っていた美容院に出かけたり、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援しています。入居前に併設のデイサービスを利用していた利用者は、デイサービスに通う馴染みの人に会いに行きます。教会や墓参り、居室で法要の支援等、職員は利用者一人ひとりの長い人生に思いを馳せ、これまでの生き方を尊重する支援を行っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格・相性・状態をしっかり把握し、会話のしやすいようテーブル席を決める等配慮している。利用者同士で関わるのが難しい時は職員が間に入る事によってより良い関係を保てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が亡くなった後もボランティアで来て下さっている家族様がおられる。契約終了後も何かあれば気軽に相談して頂ける様な関係を続けていけるよう日頃から努めている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、又は色々な場面でのその方の様子を見て、1人ひとりの思いや希望の把握に努めている。困難な場合は家族様とも相談し、本人本位に立って検討している。	利用者一人ひとりの思い・希望等の情報収集については、入居時の事前面接で、本人・家族から聞き取り、記録しています。日常の関わりの中での気づきや発見は、気づきノートに記入し、職員間で共有しています。ホーム開設時から続いている、利用者自治組織「白百合町会」は、毎週日曜日に話し合いを行います。自治会は、利用者の思いや要望を聞く、貴重な時間と位置付けています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルにその方の生活歴など本人像を綴り、又、苑での生活の中で本人との会話や家族来苑時にお聞きしたどんな小さな事でも対応に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録・申し送り・バイタルチェック・他すべての連絡ノート等に心身共の状態を把握出来るようにしている。何よりその時の利用者のいつもと違う様子など見過ごす事のないよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度のカンファレンスや毎月のモニタリングを行い、本人を取り巻く関係者と相談し、現状に即した介護計画を作成している。状態に変化があればその都度意見を出し合い見直しをしている。	介護計画書は、大阪認知症高齢者グループホーム協議会のサービス計画書の書式を活用し、「暮らしの状況」「心身の状況」を項目別に課題を見つけ、日々の「生活の目標」「活動の目標」を定めています。介護計画書は、利用者・家族の思いや希望を尊重しています。モニタリングは毎月、利用者一人ひとりに対し、職員全員意見を記入しています。日々の関わりの中での気づきや意見を、介護計画に反映しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきをその時間関わった職員が記録し、申し送り等で共有している。その中で対応方法等工夫し、何か問題があればその都度カンファレンスを行い見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に変化があれば、その都度相談し柔軟に対応出来るようにしている。車での外出が困難な家族様には介護タクシーの情報を提供し利用されている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に来て下さるすっかり顔馴染みとなったボランティアさん達との交流を皆さん楽しまれています。進んでハーモニカ演奏で参加する方もおられます。訪問美容の方との会話を楽しまれている方もおられます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	かかりつけ医が月2回の往診、その 他急変時は緊急往診もしている。当ク リニックの専門以外の医療も円滑に 受けられるよう家族の方の希望も大 切にしながら、随時の往診や他院受 診の際は職員が付き添う場合もあり ます。他院の場合も本人の様子に変 化があれば随時相談できる関係を築 いています。	入居前からのかかりつけ医療機関へ は、希望があれば受診可能です。入 居前からのかかりつけの医師に往診 にきてもらう利用者もいます。医療連 携24時間オンコール体制を整えてお り、看護師が処置のために毎日訪問 し、月2回は医師の往診があります。 「救急搬送時基本情報」シートを作成 し、夜間緊急時にも活用しています。 母体の医療法人との連携は、利用者・ 家族・職員の安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職や訪問看 護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支 援している	医療連携体制になっており、訪問看 護師に日々利用者の様子を報告相 談している。ナース指示ノートに記録 し職員全員で共有し対応支援してい る。特変ある場合は速やかに報告し、 緊急往診の手配や支持を仰いでい る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の相談員・看護師・医師との情報交換に努め、家族も交えて安心出来るような関係作りに努め、早期に退院できるように努めている。 普段から関係のある訪問看護師とは、そうした場合に備えて情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「緊急対応及び看取りに関する指針」を定め入居時に説明している。普段から家族様と終末期に関する話をする機会もあり、職員は終末期に関する内外研修や訪問看護師による勉強会に参加し、安心して利用者に関われるよう意識の強化に取り組んでいます。苑として出来得る事を説明共有し、本人家族にとって一番良い方法が取れるよう支援している。	「緊急対応及び看取りに関する指針」を作成し、家族に示して説明を行っています。重度化により、必要が生じた段階で、家族・主治医・看護師・ホーム職員を交えて話し合い、ホームでの看取りが可能な場合は、同意書を交わしています。これまでも看取りに取り組みました。職員は、看取り後、「末期に関われる幸せを感じた」「人生に寄り添えた」と思うことができ、貴重な経験から学んだことを、日々のケアに活かしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルがあり、内部研修等の勉強会も行っている。職員は救命救急講習に定期的に参加し、救命技能を修得するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難経路の確認、防災に関する研修とその伝達、年2回消防署の協力を得て色々な場面を想定した利用者を交えての避難訓練を行っている。運営推進会議でも地域の方々と協力体制が取れるよう話し合い、関係を築いている。	年2回の避難訓練を実施し、1回は消防署の指導を受けています。また、2ヵ月毎に避難経路の確認を実施し、非常ドアや懐中電灯の点検などを行っています。元消防署員の職員が、法人全体の防災に関して、点検や避難の方法を職員に解りやすく浸透させています。非常災害時の備蓄も準備しています。	
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修、勉強会、全体会議等で注意喚起を常に行い職員の意識を高めるようにしている。1人ひとりの性格を把握し、出来る事を常に考え、その方に合う支援をしている。言葉の掛け方、言葉使い等に注意し、人生の先輩として尊敬の態度を忘れず対応している。	「優しく・親切・丁寧で『その人らしさを尊重』」を理念として掲げ、職員は実践しています。利用者の尊厳を守る研修を実施し、人生の先輩として言葉かけにも尊厳を損ねない関わりが大切であることを確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情・言葉等から本人の思いを汲み取り、本人が気持ち良く動けるよう、又自分から発言出来たり、気持ちを引き出せるような声掛けを心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の介護度も上がり、全員の希望に添っての支援は出来ていないかも知れないが、その人その人の生活のペースを尊重し、その方の状態に合った支援をしている。希望には、出来るだけ沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人で整容出来る方は自分で、自己にて出来ない方は職員が鏡の前で整容したり、着やすさや気候に合った服を家族様とも相談しながら着て頂いている。希望により訪問美容にてパーマや毛染め等利用されている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているが、入居者の要望に応じ変更することもある。個々の好き嫌いにも対応し楽しく食べられるように工夫している。1人ひとりの力に応じ、野菜を切ったり食器を拭いたりと一緒に楽しんで行っている。自らキッチンに入り手伝って下さる方もいる。	食事は3食ホームで作っていましたが、利用者の重度化に伴い、直接関わる時間をより多くするため、昼食は併設のデイサービスセンターの厨房で作ってもらっています。朝食は、近くのコンビニへ利用者と一緒にパンを買に行きます。正月にはおせち料理、敬老祝賀会には松花堂弁当を職員が手作りし、利用者からも喜ばれています。職員も全員、利用者と同じものを食べながら、さりげなくサポートしています。利用者から、「美味しい」との声が聞こえ、和気あいあいとした食事風景となっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記録を行い、食べる量が少ない方には医師と相談し経腸栄養剤等に対応している。水分も少ない方には好きな飲み物・味にして提供している。こまめに声掛けをし必要な場合は、介助も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は自分で、必要な方は介助又は見守りにて行ってもらっている。歯ブラシでは負担のかかる方にはスポンジを使ってケアしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、パッドを使用している方も、時間と様子を見ながら付き添い、トイレで排泄出来るよう支援している。排泄動作自立しているが、失敗される方には、声掛け工夫して対応している。	トイレでの排泄を基本としています。誘導が必要な利用者には、一人ひとりの排泄状況を把握し、随時声かけして誘導しています。オムツを使用しながら退院してきた利用者が、随時の誘導からリハビリパンツに移行した事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より水分確保に注意し、身体を動かして頂き、トイレに座ってもらい腹部マッサージをする、ヨーグルトや繊維質の多い物を摂って頂くようにしている。自然が難しい方は医師と相談の上便薬を服用して頂き予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理に勧めることなく、本人の希望で入浴して頂いている。1人ひとりの状態により介助の仕方・声の掛け方も工夫し、気持ち良く入浴して頂けるように気を配っている。入浴が難しい方には仲の良い方と二人で入ってもらう等工夫している。季節にはゆず湯・菖蒲湯等を行い、曜日によって入浴剤を入れると「温泉や」と楽しまれている。	基本は2日に1回、週3回の入浴を実施しています。希望があればいつでも入れるようになっています。入浴を好まない利用者には、声かけの工夫やタイミングをみて、また、仲のよい利用者と一緒に入ってもらうこともあります。季節のゆず湯や菖蒲湯、入浴剤での色や香りなどを工夫し、より楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動性を高め夜間心地良く眠れるよう支援している。日中も自由に居室で横になられ、又1人の時間を守る為、本人の意思で居室に鍵をかけられるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬リストのファイル以外に個人記録のファイルにも、目的・副作用を職員により書き出し把握に努めている。個々の錠数・袋数を表にし、服薬に至るまでのチェックと服薬時の確認を確実にを行い支援している。薬の変更があった時は、特に利用者の様子に注意し詳しい記録と報告を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を発揮できるように、作業・レクリエーション等に参加して頂き、個々でも皆でも楽しめるよう努めている。嗜好品や気分転換は、家族様からの支援もある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ベランダや1階駐車場等での外気浴、近所のコンビニやスーパー等へ買物に外出している。普段行けない場所には遠足や花見等の行事で外出している。地域の祭り等にも出掛け気分転換して頂いている。その他外出希望があれば付き添っている。家族の方との外出を楽しみにされている方もおられ家族様の協力も得られている。	近くのコンビニに朝食のパンを買いにいきます。スーパーへの買い物や喫茶店に行くこともあります。初詣をはじめ、花見や遠足などの行事で外出の機会もあります。2階の広いベランダには椅子・テーブルが置かれ、利用者は自由に外へ出て、天候や季節を感じています。気分転換でホーム前の道を通り、庭の花を眺めたり、野菜の成長を見に行きます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心の為手縫いの袋に現金を入れ腰に巻いている方もおられる。ほとんどの方は欲しい物がある時は立て替えにして頂く等の支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば家族様の理解を得て自由に電話出来るよう支援している。又年賀状なども家族の方から送られてきます。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、季節を感じてもらえるように生花を生けたり、入居者の作品や季節の絵、家族の方を思い出せるような写真展示コーナーを作り、入居者同士のコミュニケーションのツールにもなっている。居室の照明は間接照明で柔らかく、室温はエアコン・窓の開閉・ブラインド等で常に注意を払っている。	ホーム内は明るく、穏やかな雰囲気です。窓際には、ゆったりとしたソファや椅子が置かれ、寛げる場所になっています。リビングの一角には一段高くなった和室もあり、洗濯たたみや手芸の作品作りの場として活用しています。リビングや廊下の壁面には、季節を感じる貼り絵や利用者の写真入りの作品が飾られ、楽しい暮らしの様子が伝わってきます。2階の広いベランダには、外気浴ができるようにベンチやテーブルを置き、季節の花も植えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳みの間、ソファ、リクライニング等自由に1人で過ごしたり、入居者同士で談話を楽しまれたりしている。テーブル席の配置も工夫し気の合った者同士楽しく過ごせるよう配慮している。自由に移動出来ない方は、その方の思い等を考えながら付き添い居場所を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、仏壇等も置き毎日仏壇に手を合わせたり、ご飯をお供えする等自宅で過ごすのと変わらない配慮をしている。家族様も本人が喜ぶカレンダーや飼っていた犬を思い出せるようなぬいぐるみを持って来られ、居心地良く過ごせるよう共に工夫している。	居室入り口には、家族交流会で家族と一緒に作ったネームプレートを掛けています。居室には使い慣れた家具や、大切にしている家族の写真等を持ち込み、その人らしい居室つくりになるよう、工夫しています。仏壇を置き、居室で法要をする利用者もいます。趣味だったトランペットの演奏時の写真を貼っている利用者、可愛がっていた犬への思いを大切にぬいぐるみを飾っている利用者など、個性を尊重した居室となっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・居室には危険と思われる物は置かず、バリアフリーで手すりも設置し、安心安全に暮らして頂ける様に工夫している。居室前には名前、トイレは判りやすいように絵を貼り大きな字で示している。さりげない見守りを心掛け自立した生活が送れるよう支援している。		